

今日の社会では集団の意思決定に間接民主制による多数決が採用されている。Serge Galam 博士が考案した世論力学モデルではグループサイズが 3、すなわち 3 人 1 組での多数決を繰り返した場合、集団全体の意思決定がどのような結果に傾くかという研究がなされている。しかし、他のグループサイズについて現在のところほとんど報告されていない。

本研究では、グループサイズが 3 以外の場合について詳細に調べた。グループサイズを大きくするほど、Inflexible (賛成固執型) の影響は弱まった。すなわち賛成意見に傾くには Inflexible が多く存在しなければならない。また、グループサイズと賛成に振り切るために必要な 1 グループあたりの Inflexible には比例関係が存在すること、さらに偶奇性の効果が見られることがわかった。

